

地域子ども・子育て支援事業の取組状況

平成27年8月

目 次

1. 利用者支援事業	1
2. 時間外保育事業（延長保育事業）	2
3. 実費徴収に係る補足給付を行う事業	4
4. 多様な主体が本制度に参入することを促進する事業	4
5. 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）	5
6. 子育て短期支援事業（ショートステイ）	20
7. 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）	21
8. 養育支援訪問事業	22
9. 地域子育て支援拠点事業（子育てプラザ）	23
10-1. 幼稚園における在園児を対象とした一時預かり事業（預かり保育）	24
10-2. その他の一時預かり事業（保育所等）	25
11. 病児・病後児保育事業	26
12. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	27
13. 妊婦健診事業（妊婦健康診査費助成事業）	28

1. 利用者支援事業

子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、保護者が多様化する子ども・子育て支援事業から適切な選択ができるよう、わかりやすい情報提供や、利用にあたっての支援を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：か所)

	26年度	27年度
量の見込み		1
確保方策		1
実績値		1

※実績値は平成27年4月1日現在の設置数

(2) 27年度の取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

平成27年4月から、市役所庁舎内（幼児保育課）に利用者支援専門員（保育コンシェルジュ）を2名配置し、電話・窓口での相談や問合せに常時対応できるよう、業務体制を整えている。

② 「質の向上」に向けた取り組み

専門員の資質向上や情報提供の充実に向け、次の取り組みを進めている。

- ・専門員の知識向上を目的とした事務研修会を適宜実施し、幅広い情報提供ができるよう努めている。
- ・相談内容に応じて別室を案内するなど、相談者のプライバシーに配慮した対応を行っている。
- ・私立の保育所・認定こども園や地域型保育事業所を訪問し、各施設・事業所との連携・協働体制づくりを行うとともに、各施設・事業者の特色や教育・保育の実施内容等を把握し、利用者への細やかな情報提供に努めている。

2. 時間外保育事業（延長保育事業）

保育の必要性を受けた子どもが、利用している教育・保育施設や地域型保育事業所において、通常の保育時間帯以外の時間に保育を受ける事業。

教育・保育と同様に、市域を3区域（A～C）に分け、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

区域A

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

（単位：人）

	26年度	27年度
量の見込み		1,171
確保方策		1,943
実績値	1,888	2,128

※実績値は各年度4月1日現在の定員数

（2）27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

平成27年4月から、実施施設・事業所として、認定こども園が3園から4園（分園含む）、に変更、地域型保育事業所が1事業所増え、計20施設・事業所で時間外保育事業を実施しており、量の見込みに対応した提供体制は確保できている。

②「質の向上」に向けた取り組み

今後も希望する全ての保護者が利用できる環境を整備するため、私立施設・事業所への事業実施に係る補助を継続的に実施する。

区域B

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

	26年度	27年度
量の見込み		107
確保方策		530
実績値	485	485

※実績値は各年度4月1日現在の定員数

(2) 27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

平成27年4月1日現在、3施設で時間外保育事業を実施しており、量の見込みに対応した提供体制は確保できている。

②「質の向上」に向けた取り組み

今後も希望する全ての保護者が利用できる環境を整備するため、私立施設・事業所への事業実施に係る補助を継続的に実施する。

区域C

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

	26年度	27年度
量の見込み		182
確保方策		540
実績値	530	552

※実績値は各年度4月1日現在の定員数

(2) 27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

平成27年4月から、実施施設・事業所として、認定こども園が3園(分園含む)から2園に変更となり、地域型保育事業所が1事業所増え、計7施設・事業所で時間外保育事業を実施しており、量の見込みに対応した提供体制は確保できている。

②「質の向上」に向けた取り組み

今後も希望する全ての保護者が利用できる環境を整備するため、私立施設・事業所への事業実施に係る補助を継続的に実施する。

3. 実費徴収に係る補足給付を行う事業

支給認定を受けた子どもが教育・保育を受ける際に、教育・保育施設等に支払う日用品や文房具、その他教育・保育に必要な物品の購入に要する費用や、行事への参加に要する費用等に対して、その世帯の所得状況に応じて助成を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、事業を実施していく。

(1) 事業の実施状況

平成27年4月から、教育・保育施設等へは、対象となる実費徴収分についての領収書発行依頼、対象者に対しては領収書等を保管するよう周知を行っている。国からの通知により事業に関しての正式な内容が確定した際には、市から対象者へ還付方式により実施する予定。

4. 多様な主体が本制度に参入することを促進する事業

特定教育・保育施設等への民間事業者の参入の促進に関する調査研究や、その他多様な事業者の能力を活用した施設設置及び運営を促進するための取り組みを行う事業。

市域を1つの区域として設定し、事業を実施していく。

(1) 事業の実施状況

平成27年4月から、専門的な知識を有し、各施設や事業所へ巡回支援を行う職員として、公立保育園の園長経験を有する専任の相談担当職員を、こども政策課に配置している。

平成27年6月から7月にかけて、市内の全ての特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業所を巡回し、各施設・事業所の教育・保育の実施状況や特色、独自の取り組み等について説明を受けるとともに、実際の教育・保育の状況を参観した。

また、教育・保育施設及び地域型保育事業所を新たに開設しようとする事業者に対し、利用乳幼児の安全確保や教育・保育の質向上の観点から開設予定地の訪問などを実施し、指導・助言等の支援を行っている。

5. 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

保護者が就労などの理由で昼間家庭にいない児童（小学生）に対して、放課後に小学校の余裕教室や敷地内のプレハブ専用教室などを活用し、適切な遊びや生活の場を与え、その保護と健全な育成を図る事業。

児童福祉法の改正により、これまで3年生までが対象であったのが、地域のニーズに応じて6年生までが対象となった。

各小学校区（28小学校区）を区域の単位として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

1) 加古川小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の 見 込 み	低学年(1～3年生)		101
	高学年(4～6年生)		41
	合計		142
確保方策			116
実績値		116	116

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月からクラブを分割して2クラブで実施している。

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するため、平成28年4月からの3クラブ増設に向けた施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

2) 鳩里小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		139
	高学年(4～6年生)		59
	合計		198
確保方策			130
実績値		130	130

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度 of 取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童が発生しており、待機児童の解消に向けた施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

3) 氷丘小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		111
	高学年(4～6年生)		50
	合計		161
確保方策			119
実績値		119	119

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度 of 取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

4) 氷丘南小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		96
	高学年(4～6年生)		32
	合計		128
確保方策			128
実績値		128	128

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月からクラブを分割して2クラブで実施している。4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するため、民間事業者の施設整備による平成28年4月からの2クラブ増設に向けて、協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

5) 若宮小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		73
	高学年(4～6年生)		25
	合計		98
確保方策			64
実績値		64	64

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

6) 尾上小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		85
	高学年(4～6年生)		36
	合計		121
確保方策			64
実績値		64	64

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童が発生していることから、待機児童の解消、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを目指し、平成28年4月からの2クラブ増設に向けた施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

7) 浜の宮小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		70
	高学年(4～6年生)		29
	合計		99
確保方策			66
実績値		66	66

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童が発生しており、待機児童を解消するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

8) 別府小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		63
	高学年(4～6年生)		21
	合計		84
確保方策			66
実績値		66	66

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

9) 別府西小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		71
	高学年(4～6年生)		37
	合計		108
確保方策			84
実績値		84	84

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

10) 平岡小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		71
	高学年(4～6年生)		27
	合計		98
確保方策			57
実績値		57	57

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童が発生しており、待機児童を解消するため、平成28年4月からの1クラブ増設に向けた施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

11) 平岡東小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		104
	高学年(4～6年生)		36
	合計		140
確保方策			114
実績値		114	114

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童が発生しており、待機児童を解消するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

12) 平岡南小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		77
	高学年(4～6年生)		36
	合計		113
確保方策			82
実績値		82	82

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

13) 平岡北小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		92
	高学年(4～6年生)		36
	合計		128
確保方策			98
実績値		98	98

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合を目指し、平成28年4月からの1クラブ増設に向けた施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

14) 野口小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の 見 込 み	低学年(1～3年生)		92
	高学年(4～6年生)		43
	合計		135
確保方策			119
実績値		79	96

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月から学校施設内(教室)で1クラブを増設し、計2クラブで実施したことにより、基準への適合に向けた児童一人あたりの面積を改善している。4月1日現在、待機児童は発生していないが、高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

15) 野口南小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の 見 込 み	低学年(1～3年生)		92
	高学年(4～6年生)		38
	合計		130
確保方策			116
実績値		84	138

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月から学校施設内(プレハブ教室)で2クラブを増設し、計3クラブで実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、児童一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れも実施しており、提供体制は確保済みである。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

16) 野口北小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		92
	高学年(4～6年生)		31
	合計		123
確保方策			121
実績値		121	121

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

17) 神野小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		55
	高学年(4～6年生)		31
	合計		86
確保方策			65
実績値		65	65

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

18) 陵北小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		61
	高学年(4～6年生)		18
	合計		79
確保方策			65
実績値		65	65

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

19) 八幡小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		22
	高学年(4～6年生)		13
	合計		35
確保方策			39
実績値		64	46

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月から基準への適合に向けて児童一人あたりの面積を改善したほか、高学年までの受入れを実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、提供体制は確保済みである。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

20) 川西小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		68
	高学年(4～6年生)		18
	合計		86
確保方策			64
実績値		64	64

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するため、平成28年4月からの1クラブ増設に向けた施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

21) 東神吉小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		45
	高学年(4～6年生)		15
	合計		60
確保方策			67
実績値		67	67

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

22) 東神吉南小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		57
	高学年(4～6年生)		23
	合計		80
確保方策			66
実績値		66	66

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度 of 取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童が発生しており、待機児童を解消するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

23) 西神吉小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		65
	高学年(4～6年生)		20
	合計		85
確保方策			64
実績値		64	64

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度 of 取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月1日現在、待機児童は発生していないが、一人あたりの面積基準への適合及び高学年までの受入れを実施するための施設整備について、学校等関係部署との協議を進めている。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

24) 志方小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		17
	高学年(4～6年生)		9
	合計		26
確保方策			40
実績値		67	48

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月から基準への適合に向けて児童一人あたりの面積を改善したほか、高学年までの受入れを実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、提供体制は確保済みである。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

25) 志方東小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量の見込み	低学年(1～3年生)		13
	高学年(4～6年生)		5
	合計		18
確保方策			39
実績値		64	46

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

4月から基準への適合に向けて児童一人あたりの面積を改善したほか、高学年までの受入れを実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、提供体制は確保済みである。

②「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

26) 志方西小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26 年度	27 年度
量 の 見 込 み	低学年(1～3年生)		21
	高学年(4～6年生)		7
	合計		28
確保方策			40
実績値		66	48

※実績値は各年度 4 月 1 日現在の受入可能人数

(2) 27 年度 of 取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月から基準への適合に向けて児童一人あたりの面積を改善したほか、高学年までの受入れを実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、提供体制は確保済みである。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

27) 平荘小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26 年度	27 年度
量 の 見 込 み	低学年(1～3年生)		35
	高学年(4～6年生)		10
	合計		45
確保方策			40
実績値		67	48

※実績値は各年度 4 月 1 日現在の受入可能人数

(2) 27 年度 of 取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月から基準への適合に向けて児童一人あたりの面積を改善したほか、高学年までの受入れを実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、提供体制は確保済みである。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

28) 上荘小学校

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

		26年度	27年度
量 の 見 込 み	低学年(1～3年生)		21
	高学年(4～6年生)		8
	合計		29
確保方策			39
実績値		64	46

※実績値は各年度4月1日現在の受入可能人数

(2) 27年度の実施状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

4月から基準への適合に向けて児童一人あたりの面積を改善したほか、高学年までの受入れを実施している。4月1日現在、待機児童は発生しておらず、提供体制は確保済みである。

② 「質の向上」に向けた取り組み

支援員の資質向上を目指し、4月に児童クラブの趣旨や避難訓練など、6月に支援員の心構えや育成支援など、7月に応急手当や救急救命などをテーマとした研修を実施した。年度内にあと2回の実施を予定している。

6. 子育て短期支援事業（ショートステイ）

保護者の疾病等の理由で、家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童に対して、児童養護施設等において必要な保護を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

（単位：人/年）

	26年度	27年度
量の見込み		280
確保方策		280
実績値	340	

※実績値は平成26年度の延べ利用人数

（2）27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

乳児院（市外3施設）及び児童養護施設（市内2施設、市外3施設）を受け入れ先として事業を実施している。

②「質の向上」に向けた取り組み

休日の対応は年に数件あり、現在は緊急連絡が入り次第、職員が対応しているが、施設との調整等に苦慮しており、今後は近隣市町の状況も把握しながら、市独自で緊急時の施設の確保を図るなど、緊急時（休日を含む）の利用ニーズへの対応を検討している。

7. 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）

市内の乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育てに関する情報の提供並びに乳児及びその保護者の心身の状況や養育環境の把握を行うほか、養育についての相談に応じ、助言その他の援助を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

（単位：人）

	26年度	27年度
量の見込み		2,448
確保方策		2,448
実績値	訪問対象者 2,245 人 訪問人数 2,164 人	

※実績値は平成26年度の訪問対象者数及び訪問人数

（2）27年度の実施状況

①「量の確保」に向けた取り組み

保健師・助産師・看護師による家庭訪問を実施し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に繋げている。

また、妊娠連絡票や出生連絡票、養育支援ネット等による事前情報を踏まえ、支援の必要性が高いと見込まれる家庭に対しては、可能な限り地区担当保健師が訪問を実施している。

②「質の向上」に向けた取り組み

訪問担当者の研修会や医療機関等との情報交換会を行うほか、家庭支援課との定期的な会議では、今後の支援方法等について協議を行い、児童虐待の未然防止に努めている。

8. 養育支援訪問事業

乳児家庭全戸訪問の実施などにより把握した、保護者の養育を支援することが特に必要と認められる児童や、保護者に監護させることが不相当であると認められる家庭、出産前において出産後の養育支援を行うことが特に必要と認められる妊婦に対し、その養育が適切に行われるよう、保健師の訪問による養育に関する相談・指導・助言や、子育てヘルパーの派遣による家事・育児等を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人)

	26年度	27年度
量の見込み		30
確保方策		30
実績値	42	

※実績値は平成26年度の訪問対象家庭数

(2) 27年度の取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

保健師2人による家庭訪問を実施するほか、必要に応じて委託2事業者による子育てヘルパーの派遣を実施している。

② 「質の向上」に向けた取り組み

養育支援訪問事業担当課（家庭支援課）と乳児家庭全戸訪問及び乳幼児健診担当課（育児保健課）で情報交換会を月1回開催し、要保護児童の状況等の情報共有のほか、今後の支援のあり方について協議を行うなど、児童虐待の未然防止に努めている。

9. 地域子育て支援拠点事業（子育てプラザ）

乳幼児とその保護者が気軽に交流できる場所を開設し、子育てについての相談や情報提供、助言等を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

（単位：人/年）

	26年度	27年度
量の見込み		77,532
確保方策		77,532
実績値	78,250	

※実績値は平成26年度の子どもの延べ利用人数

（2）27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

加古川駅南子育てプラザ及び東加古川子育てプラザの2か所で実施しており、子育て中の親子が一緒に遊び、気軽に交流できることも広場や、子育てサークルが自主的・継続的に活動できるプレイルームを提供している。

また、育児に関する相談に常時対応しているほか、子育てに関する各種イベント・講座やボランティアの発掘・育成に関する講座を開催している。

子育てプラザの利用促進に向け、育児保健課が行う乳幼児健診時におたよりや講座案内を配布するほか、イベント時には公民館等にもパンフレットを設置し、広く周知を図っている。今後は、コンビニ等へのパンフレット設置依頼など、より幅広い周知を検討している。

②「質の向上」に向けた取り組み

利用者に対する支援として、様子が気になる保護者に対しては、積極的な声掛けを行い、育児に関する相談を受けている。また、「まちの保健室」での健康診断や、健康チェックでの食事相談では、専門的な知識を必要とする相談や情報提供を行っている。現在のところ深刻な相談はないが、児童虐待や健康不良などに対しては早期発見に繋がるよう、家庭支援課や育児保健課と連携を図っている。

10-1. 幼稚園における在園児を対象とした一時預かり事業（預かり保育）

幼稚園の在園児に対して、教育課程に係る教育時間以外の時間帯において保育を行う事業。市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人/年)

		26年度	27年度
量の見込み	1号認定(教育標準時間)		15,099
	2号認定(教育利用希望)		6,180
	合計		21,279
確保方策	公立幼稚園		7,600
	私立幼稚園		13,700
	合計		21,300
実績値		145	

※実績値は平成26年度の公立幼稚園の延べ利用人数

(2) 27年度の実施状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

全ての公立幼稚園（20園）、私立認定こども園（6園、分園含む）において、1号認定児に対する預かり保育を実施している。

② 「質の向上」に向けた取り組み

今後も希望する全ての保護者が利用できる環境を整備していく。

10-2. その他の一時預かり事業（保育所等）

保護者の急な用事や短期のパートタイム就労などの理由により、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児を保育所等で一時的に預かる事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

（単位：人/年）

	26年度	27年度
量の見込み		15,168
確保方策		23,180
実績値		23,600

※実績値は平成27年度の提供体制

（2）27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

平成27年4月から、実施施設・事業所として、認定こども園が4園から6園（分園含む）に変更、地域型保育事業所が1事業所増え、計20施設・事業所で一時預かり事業を実施している。

②「質の向上」に向けた取り組み

今後も希望する全ての保護者が利用できる環境を整備するため、私立施設・事業所への事業実施に係る補助を継続的に実施するとともに、実施施設の拡充を図る。

11. 病児・病後児保育事業

病気や病後の乳幼児を家庭で保育できない場合に、保育所や認定こども園、医療機関等の施設において保育を行う事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

(1) 事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

(単位：人/年)

	26年度	27年度
量の見込み		1,404
確保方策		2,440
実績値		2,916

※実績値は平成27年度の提供体制

(2) 27年度の取組状況

① 「量の確保」に向けた取り組み

病児保育について、平成27年4月から高砂市に所在する病児保育室と提携し、加古川市民が利用しやすい環境を整備している。また、市内での民間事業者による病児保育事業の実施に向け検討を進めている。

② 「質の向上」に向けた取り組み

今後も希望する全ての保護者が利用できる環境を整備するため、私立施設への事業実施に係る補助を継続的に実施する。

12. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）

「子育ての援助を受けたい人（依頼会員）」と、「子育てを援助したい人（提供会員）」を登録し、お互いの理解と協力の下で、地域の中で行われる育児援助の有償ボランティア活動をサポートする事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

（単位：人/年）

	26年度	27年度
量の見込み		5,928
確保方策		5,928
実績値	6,223	

※実績値は平成26年度の延べ利用件数

（2）27年度の取組状況

①「量の確保」に向けた取り組み

平成27年4月末現在で、依頼会員には1,657人、提供会員には501人、両方会員（依頼・提供ともに登録）には162人が登録し、依頼会員の様々な援助ニーズに対して、提供会員による援助ボランティアを繋げている。

また、援助が必要な人に必要な支援が届くよう、お楽しみ会やイベントを開催し、当事業のさらなる周知を図っている。

②「質の向上」に向けた取り組み

提供会員の登録にあたっては、援助活動に必要な様々な知識やスキルを習得するため、4日間の提供会員講習会の受講・修了を必須としている。また、登録後の提供会員の援助力向上に向け、援助活動に関するフォローアップ研修や、会員同士の情報交換を行う交流会等を開催することにより、保護者が安心して利用できる環境の整備に努めている。

また、会員登録の際には、「援助活動の手引き」を配付し、当事業の正しい利用方法等についてのお知らせを行い、提供会員と依頼会員のお互いの理解と協力の下で活動が行われるよう努めている。

13. 妊婦健診事業（妊婦健康診査費助成事業）

妊婦やお腹の赤ちゃんの健康を守り、安心して出産を迎えることができるよう、妊婦健康診査にかかる費用の一部を助成する事業。

市域を1つの区域として設定し、「量の見込み」に対応した提供体制を確保していく。

（1）事業計画における「量の見込み」・「確保方策」と実績値

		26年度	27年度
量の見込み	対象人数(人)		3,427
	健診回数(回/年)		26,388
確保方策	対象人数(人)		3,427
	健診回数(回/年)		26,388
実績値	対象人数(人)	3,637	
	健診回数(回/年)	28,003	

※実績値は平成26年度の対象人数及び延べ健診回数

※対象人数…妊娠期間の関係で2か年にわたり助成券を利用した場合は、各年度にそれぞれ「1人」を計上

（2）27年度の実績状況

①「量の確保」に向けた取り組み

協力医療機関（加古川市、明石市、高砂市の3市にある医療機関等）での妊婦健診に利用可能な助成券を配付している。また、協力医療機関以外での健診費用についても、後日、利用者の申請により還付しており、全ての医療機関等での妊婦健診を助成対象としている。

②「質の向上」に向けた取り組み

平成27年度からは、これまでの助成券（14回、上限70,000円の助成）に加え、助成券との併用が可能な補助券（1,000円×12枚）を配付し、助成額を増額している。